

標本棚

趣味

昔のフィルム写真に

もう一度脚光を！

根谷崎 武彦

私が写真始めたのは中学生の頃だから、キヤリヤーだけは長いが、技量は一向に上達しない。二〇〇五年にデジタル写真に切り替えるまでのフィルム写真のアルバムで、書架が満員になってしまった。そこでフィルム原版のデジタルスキャンを始めてみる

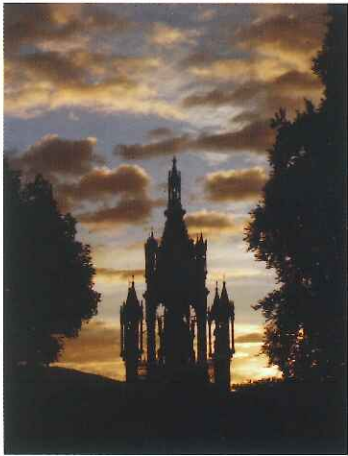


生きた絵本の村 撮影地：ミッテンヴァルト(ドイツ)2000年6月

と、撮ったまま発表しなかつた作品がたくさんなあることに気がつき、デジタル化した古いフィルム写真で個展を開催した。



ユングフラウ遠望 撮影地：インタラーケン(スイス)1995年5月



ブルンズウィック公記念碑 撮影地：ジュネーヴ(スイス)1998年10月



"S'il vous plait Madame" 撮影地：グルノーブル(フランス)2000年7月

家庭菜園奮戦記

JICA国内支援委員

田原 雄一郎

家庭菜園は面白い。二カ所合わせて90㎡に多様な野菜を栽培しています。四月中旬にはDIYに種苗がならびます。ミニトマト、ナス、シシトウ、オクラ、レタス、タマネギには見向きもしません。私は防鳥ネットで被害を防止しています。

クラ、インゲン、空心菜、モロヘイヤ、カボチャ、ゴーヤなどを植え付けます。ミニトマトは家庭菜園の代表格です。私は郷里の熊本から長ナスの苗を取り寄せています。棚で作るカボチャは美味しく、収穫後、長期保存も可能なため重宝しています。夏野菜は害虫との戦いです。初秋には大根、白菜、小松菜、キャベツ、ブロッコリー、チンゲンサイ、タアサイ、京菜などの種まきです。これらの野菜の収穫期を狙って飛来するのが、ヒヨドリとムクドリです。なにせ夏場の害虫に比べて、彼らのついでには多い。早朝から野鳥の宴会場になります。彼らの第一の好物はカリフラワーとブロッコリー(ただし葉のみ)、その後、チンゲンサイ、タアサイ、カキナが攻撃を受けます。



晴耕雨読は実利もあって楽しいものです。毎日、新鮮な野菜が食卓に並ぶのは愉快です。野菜の高騰もお陰で乗り切ることができました。ドイツやグアテマラの友人には、家庭菜園(Gartenarbeit)が理解されにくい。生野菜を食べる習慣がないからかもしれません。

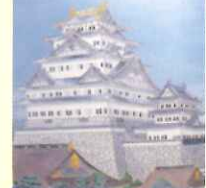
江戸城築城の秘話(その二)

新発見、最強の初代江戸城城郭

江戸文化歴史研究員 窪田 孝

江戸城の天守は、慶長、元和、寛永と三度築かれたが、明暦三年(一六五七年)の大火により焼けて以来、築城されていない。現存の天守台は加賀藩前田家により、瀬戸内海の御影石などで築かれたものである。

昨年二月、松江市の松江歴史館で『江戸始図』が発見され、徳川家康の築城した初代の慶長天守閣が明らかになった。



慶長十二年(一六〇七年)に完成したが、この時期は將軍とはいえず、天下を収めておらず、豊臣家の大阪城をとりまく準備をしている段階であった。幕府を開いた一六〇三年から本格的に江戸城の普請を再開し、従来の絵図等から想像されていた単一式の天守をはるかに上回るもので、防御と反撃力にすぐれた強固な連立式天守群であった。現存する西の守りの姫路城と同じタイプの造りであった。

「風はアルハンブラに囁いた」より
詩人 関口 彰
言葉の秘部にふれるとイメージは鮮やかな始動をはじめて情感は波打ちながら知覚の舟を沖に向かわせませすそれは詩なのでしょうか
自然のたまたまに凝視する眼の光と力が心のありようで色をつむぎ出し形が生み出されてゆきますこれは絵なのでしょうか
モーツァルト
永遠に流露する至純な魂その調べの途方もない軽やかな芸術は詩から言葉を眠らせてしまいます

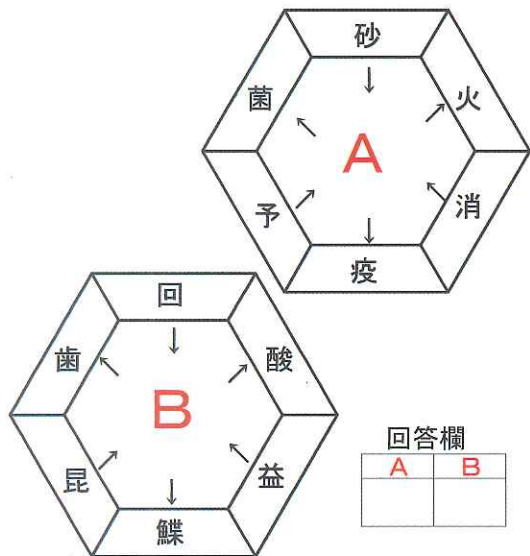
風はアルハンブラに囁いた



関口 彰 著
みくろ 房
定価 1,800円

むしくわす

問題 周囲の文字に共通する漢字をAとBそれぞれに入れて下さい。A→Bの文字で出来る熟語をお答え下さい。



回答欄	
A	B

◆応募規定 ハガキまたはファクシミリで、答え、住所、氏名、当社との関係を明記の上、ご応募ください。
〒105-0014 東京都港区芝2の23の4
アベックス産業内 APEX CLUB宛
ファクシミリ番号 03-3455-6558
締切は平成30年2月末日(当日消印有効)
正解者の中から抽選で若干名様に記念品を差し上げます。
★前号の正解と当選者(順不同)
正解は「Aが3、Bが1」でした。
当選者は：小沢摩希子、鎌田晃、伊藤靖忠の3名様です。

正直者ばかりバカを見る

池田清彦



生物学者で、早稲田大学教授がメールマガジンに配信した「池田清彦のやせ我慢日記」を再構成して出版した著書。なぜ「認知症」なる病気が急増したのか。なぜ科学的事実を装ったウソがまかり通るのか。なぜ医療用大麻の有効性が無視されるのか。世の理不尽さに、(自称)老い先短い気楽さで物申す秀逸なエッセイ。その中で「昆虫食はエコロジカル」「美味い昆虫あれこれ」「カミキリムシの幼虫はマグロのトロなど、昆虫を題材にした話には、虫嫌いの人も、好きになるかどうかは別にして、思わず納得させられてしまう。専門家としての説明責任は十分。他にも、政治、科学、行政、生命、病気、日々は雑感など、テーマは多岐にわたり、アメリカのトランプ大統領も登場する。各テーマを思わず笑える一言で締めくくっており、深い話を楽しく読める。

正直者ばかりバカを見る

著者：池田 清彦
角川新書
定価：本体八百円(税別)

触覚 BOOK